

コンパニー・ジェネラル・デ・ゼタブリスマン・ミシュラン

上半期業績 2019 年 6 月 30 日

予想を上回る困難な市場環境において、セグメント営業利益は 8%増の 14 億 3,800 万ユーロ

厳格な価格ミックスおよび競争力強化のマネジメント

買収が予想通り貢献

低迷市場に沿って確認された指標

- 予想以上に弱含みの市場において、ミシュランの販売量は以下の要因により 0.9%減少。
  - 乗用車・ライトトラック用タイヤは、直需需要の減少により 2%落ち込んだ市場において、グループのポジションを維持。
  - トラック用タイヤは、市場が 1%落ち込む中、特にサービス&ソリューションの展開から利益を得て販売量は横ばい。
  - 鉱山用タイヤ事業はさらに成長して、市場下落による農業用タイヤの急激な販売量落ち込みの相殺に貢献。
- 原材料対価格ミックス効果は、持続的な価格管理とミックス価値の一連の強化のお陰で正味 7,900 万ユーロの付加価値。
- 競争力強化による 4,000 万ユーロの増益（インフレ考慮後）。
- 予想通り、最近買収したフェナーおよびカムソによる 1 億 100 万ユーロの貢献。
- グループの成長戦略に沿った、マルチストラダおよびマスターノートの買収。

最高経営責任者のフロラン・メネゴーは以下のように述べています。「非常に不安定な市場において、グループは厳格な価格運用、および競争力強化計画の厳格な実施によって利益を維持する能力を証明しました。また、最近の買収による力強い貢献の恩恵も受けました。不安定なビジネス環境が続く中、グループはタイヤ・ビジネスにおけるリーダーシップを維持し成長戦略の展開を継続していくために、競争力のイニシアティブとなる堅実な価格方針を追求していきます。」

□ 確認された指標

2019年の乗用車・ライトトラック用タイヤ市場は1%落ち込むと予想されています。市販セグメントの成長はわずか1%で、直需セグメントの4.4%という急激な縮小を相殺することができません。トラック用タイヤ市場は下半期にさらに急速に落ち込み、2%減で今年度を終えると見込まれます。鉱山用および航空機用タイヤ市場は引き続き拡大して、農業用タイヤ市場および建設機械用タイヤ市場の直需需要の急落を相殺すると思われる。原材料コストおよび関税の通年の影響は、予想された通り、マイナス1億ユーロ程度と推計されます。

このシナリオにおいて、ミシュランはグローバル市場トレンドに沿った販売量の成長、2018年の数値を上回るセグメント営業利益（為替レート変動の影響を除外し、フェナーおよびカムソによる推計1億5,000万ユーロの貢献を考慮前）および14億5,000万ユーロ\*を上回る構造的なフリーキャッシュフローというように、2019年の指標を確認しています。

\* その内1億5,000万ユーロはIFRS第16号適用によるものです。

(単位：百万ユーロ)	2019 年上半期*	2018 年上半期 (修正後)	2018 年上半期 (報告実績)
売上高	<b>11,781</b>		10,603
セグメント営業利益	<b>1,438</b>		1,327
セグメント営業利益率	<b>12.2%</b>	12.5%	12.5%
自動車 および関連販売事業 <sup>1</sup>	<b>10.3%</b>	11.3%	11.5%
道路輸送 および関連販売事業 <sup>1</sup>	<b>8.9%</b>	8.1%	7.0%
特殊製品 および関連販売事業 <sup>1</sup>	<b>19.3%</b>	22.7%	22.0%
その他営業損益	<b>-90</b>		23
営業利益	<b>1,348</b>		1,350
純利益	<b>844</b>		917
一株あたり利益	<b>4.74</b>		5.12
セグメント EBITDA (償却前営業利益)	<b>2,296</b>		1,985
資本支出	<b>665</b>		588
純債務	<b>6,664</b>		3,753
負債比率	<b>54%</b>		33%
従業員給付債務	<b>3,976</b>		3,904
フリーキャッシュフロー <sup>2</sup>	<b>-592</b>		-2,049
従業員数 <sup>3</sup>	<b>125,400</b>		113,600

<sup>1</sup> カムソ買収およびオフロード事業合併後、セグメントの構成に一部微細な調整を加えています。

<sup>2</sup> フリーキャッシュフロー：営業活動による正味キャッシュから投資活動に使われる正味キャッシュおよびその他の短期金融資産による正味キャッシュを控除したもの（株主還元前）。

<sup>3</sup> 期末時点

\*IFRS第16号の影響を含む。

## 市場動向

### ● 乗用車・ライトトラック用タイヤ

上半期 2019年/2018年 (タイヤ本数ベース)	欧州 (ロシアおよび CIS* を含む)	欧州 (ロシアおよび CIS* を除く)	北米	中米	南米	アジア (インドを 除く)	アフリカ/イ ンド /中東	合計
直需市場	-6%	-7%	-3%**		-1%	-9%	-15%	-7%
市販市場	-2%	-2%	+4%	-0%	-4%	+2%	+1%	+1%

第2四半期 2019年/2018年 (タイヤ本数ベース)	欧州 (ロシアおよび CIS* を含む)	欧州 (ロシアおよび CIS* を除く)	北米	中米	南米	アジア (インドを 除く)	アフリカ/イ ンド /中東	合計
直需市場	-8%	-9%	-1%**		+3%	-11%	-18%	-8%
市販市場	-2%	-3%	+1	-2%	-1%	+4%	+1%	+1%

\* トルコを含む

\*\* 北米と中米

2019年上半期の直需および市販の乗用車・ライトトラック用タイヤの世界中の販売量は、直需需要の7%下落に引きずられて2%減少しました。

#### ■ 直需市場

- 西欧では、上半期は、乗用車等の国際調和排出ガス・燃費試験法（WLTP）基準導入による継続的なマイナスの影響（主に第1四半期）およびトルコの経済危機により、需要は7%縮小しました。また、欧州の輸出売上高は中国経済の減速および米国の保護貿易措置の導入によって冷え込みました。東欧では、直需需要は引き続き上昇基調で、上半期は5%伸びました。
- 北米および中米では、好調な経済環境にもかかわらず上半期は内需の軟化により市場は全体で3%減少しており、前年下半期の2%増と比較すると悪化の兆候であると思われます。
- アジア（インドを除く）の需要は9%減で上半期を終えました。中国市場は当期中暴落し、前年下半期のトレンドに一致して15%落ち込みました。米国との貿易戦争によりすでに大きな打撃を受けた上、一部の主要都市における「国6」基準（排ガス規制）の導入に先駆けた在庫削減により直需需要はさらに減少しています。アジアのその他の需要は引き続き堅調で、韓国では市場縮小にもかかわらず第2四半期はわずかながら2%増加しました。

- 南米市場は、第2四半期に3%反発を見せたもののアルゼンチンの経済危機の影響を大きく受けて上半期は全体では1%減で終わりました。
- アフリカ、インド、中東地域では、インドでルピーの下落および金融引き締めにより内需が減少したこと、並びにイラン危機を主に反映して、2019年上半期全体の直需市場は15%急落しました。

## ■ 市販市場

- 欧州の市販タイヤ市場は全体では前年同期比で2%縮小しました。
- 西欧の市販タイヤ市場は、トルコの経済危機およびドイツの在庫削減のマイナスの影響が引き続き需要を大きく圧迫して、第1、第2四半期共に2%落ち込みました。主にディーラーの在庫水準が高かった結果、フランス（2%減）およびスペイン（3%減）では市場はさらに低迷しました。このような環境下で、オールシーズンタイヤの需要は依然として堅調です。
- 東欧では、市場は全体で1%伸びました。第1四半期はロシアの需要軟化により4%落ち込みましたが、第2四半期はロシア市場が上向き、ウクライナで上半期全般にわたって需要が上昇基調だったことに牽引されて7%増加に転じました。
- 北米市場は、第2四半期に米国で（第1四半期の8%増から1%増に）急激な減速があり、2019年上半期全体では4%の伸びとなりました。この成長は“ノン・プール市場”（USTMAメンバー以外）の10%の増加に牽引されたものですが、この市場のタイヤ需要はアメリカと相手国との貿易戦争による懸念がディーラーによるスタンダードタイヤの買い込みを促しており、変動が大きくなりました。“プール市場”（USTMAメンバー）のタイヤ需要は、走行キロ数のトレンドに沿って当期中横ばいでした。
- アジア（インドを除く）の需要は2%増で上半期を終了しました。中国の市販市場は回復が続き、第2四半期だけで5%増加したのを含め、上半期全体では4%増でした。2019年上半期のアジアのその他地域の需要は全体で1%の微増でした。日本の2%の落ち込みが韓国（8%増）およびインドネシア（3%増）の活発な成長によって相殺されました。
- 当年度上半期中米市場は横ばいでした。メキシコ以外の地域では当期中需要はおおむね変動がなかったにもかかわらず、メキシコでは第2四半期に3%という突然の減速がありました。
- 南米では、市場は全体で4%下落して上半期を終えました。経済危機によりアルゼンチンで22%の急落、およびブラジルで6%減となったことを反映して第1四半期は7%落ち込みましたが、第2四半期はブラジルの需要が横ばいになって当地域の落ち込みはわずか1%と緩和されました。
- 前年度下半期に比べ、2019年上半期のアフリカ、インド、中東地域の市販タイヤ需要の成長は1%と冷え込みました。これは主にインドの勢いが減速したこと（4%増）および地政学的環境の緊張がますます高まる中東で3%の急激な縮小があったことによるものです。

● **トラック用タイヤ（ラジアルおよびバイアス）**

上半期 2019年/2018年 (タイヤ本数ベース)	欧州 (ロシアおよび CIS* を含む)	欧州 (ロシアおよび CIS* を除く)	北米	中米	南米	アジア (インドを除く)	アフリカ/インド /中東	合計
直需市場	-4%	-4%	+9%	-40%	+32%	-0%	+9%	+2%
市販市場	-1%	-1%	-10%	-2%	-2%	-2%	-1%	-2%

第2四半期 2019年/2018年 (タイヤ本数ベース)	欧州 (ロシアおよび CIS* を含む)	欧州 (ロシアおよび CIS* を除く)	北米	中米	南米	アジア (インドを除く)	アフリカ/インド /中東	合計
直需市場	-7%	-8%	+6%	-68%	+32%	-2%	+8%	+0%
市販市場	+2%	+3%	-12%	-1%	-3%	-4%	-1%	-4%

\*トルコを含む

2019年上半期の直需および市販のトラック用新品タイヤの世界での需要は、販売タイヤ本数ベースで1%減少しました。主に、直需需要は当期中（2%の）上昇トレンドが続いたものの、市販市場で2%の急速な減速があったことによるものです。

■ **直需市場**

- 西欧では、直需の需要は全体では4%後退しました。第1四半期は主にトルコの経済危機およびスペインと英国の需要縮小から1%落ち込みました。その後、第2四半期はドイツで19%落ち込み、フランスで第1四半期の6%増から第2四半期の2%減と揺れ動いた市場の悪化から、さらに8%の急激な落ち込みとなりました。東欧の需要は、第1四半期の11%急落から第2四半期は1%増と横ばいになり、全体では4%減少で当期を終えました。
- 北米市場は依然として迅速な拡大を続ける経済において、2019年上半期は前年同期の高い比較数値（16%増）を反映して9%の伸びでした。しかしながら、勢いは第2四半期には第1四半期の12%から減速して6%となりました。
- アジア（インドを除く）の需要は当期中横ばいでした。第1四半期に、中国（1%増）、日本（2%増）およびインドネシア（6%増）の増加に牽引されて2%伸びた後、第2四半期の需要は減少に転じて、中国（2%減）およびインドネシア（17%急落）の縮小が日本の継続的な成長（3%増）を相殺した結果、全体では2%減少となりました。
- 中米では、メキシコ市場が40%急落しました。
- 南米の需要は、ブラジル市場の持続的な34%の成長により引き上げられて、32%増加しました。
- アフリカ、インド、中東地域では、市場は9%拡大しました。これはインドの12%の需要の拡大に牽引されたものですが、一方で中東市場は地域の対立が悪化した影響を受けました。

## 市販市場

- 西欧では、市販タイヤの需要は上半期中1%落ち込みました。第1四半期の業績は、主に（中国製タイヤ輸入に対して5月に導入されたアンチダンピング措置に先駆けて2018年第1四半期に起こった駆け込み購入による）不利な比較数値、およびトルコの経済危機によって弱められました。この経済危機には依然影響を受けているものの、第2四半期は前年同期との有利な比較、および貨物需要の持続的な成長に牽引されて市場は3%改善しました。
- 北米市場は、第2四半期に12%と大きく落ち込んで、全体では10%の急落となりました。貨物需要の堅実な成長にもかかわらず、(1) 現在1年以上続いている米国の直需需要の力強い拡大、および(2) 2018年後半から2019年前半にかけて2月半ばの関税導入に先駆けてアジア輸入の在庫が大幅に取り崩されたこと、により市販タイヤ市場は後退しました。
- 上半期のアジア（インドを除く）の市販タイヤの需要は2%落ち込みました。中国では、極めて不安定な経済環境下で第2四半期に5%急落して、需要は当期全体では2%落ち込みました。東南アジアでは、需要は第1四半期に1%増加しましたが、第2四半期にインドネシアおよびマレーシアで10%の下降に転じ、3%減少となって増加が打ち消されたため、上半期は1%減少で終わりました。日本および韓国は当期全体で1%増と振るいませんでした。
- 中米では、市場はメキシコで4%落ち込んだこともあって、全体では2%下落しました。
- 南米市場は、ブラジルでは需要が堅調だったものの、アルゼンチンの経済危機（12%減）およびコロンビアでの減少（第1四半期に17%増加の後、第2四半期は7%減少）の影響を受けて全体では2%落ち込みました。
- アフリカ、インド、中東市場は、インドで成長が減速したこと、および当地域のその他では全般的に不安定な経済・地政学的状況だったことを反映して、1%減少しました。

## ● 特殊タイヤ

- **鉱山用タイヤ**：鉱山用タイヤ市場では、依然として銅、鉄、石炭およびその他の鉱業会社からの堅調な需要が見られています。
- **農業・建設機械用タイヤ**：農業用セグメントでは、トルコの経済危機によって欧州で、および 2019 年初めに新たな規制基準が導入されたことを受けて南米で、直需市場は落ち込みました。市販タイヤの需要もトルコで縮小、北米で（洪水および農業収入の減少により）急落し、さらに最近ではイタリアでも減少しました。インフラ向けタイヤの売上高は当期中伸びましたが、当セグメントは 2 年半続いた成長と 2018 年の最高記録の後、減速の兆候を見せています。
- **二輪車用タイヤ**：モーターサイクルおよびスクーター用タイヤ市場は、欧州ではさらに成長しましたが、北米では落ち込みました。通勤セグメントの需要は新興市場では上昇トレンドが続きました。
- **航空機用タイヤ**：中国およびインドではやや減速しているものの旅客輸送の持続的な増加に牽引されて、商用機用タイヤ市場は拡大が続いており、ラジアルセグメントでは特に顕著な増加となっています。

## 2019 年上半期の売上高および業績

## ● 売上高

2019年上半期の売上高は、以下の要因の複合的な影響により、前年同期比11%増の117億8,100万ユーロとなりました。

- 販売量の0.9%の減少。主に乗用車・ライトトラック用タイヤの直需需要の急激な減少によるものですが、乗用車・ライトトラック用およびトラック用セグメント双方の市販タイヤ市場の減速も一因です。同時に、鉱山用事業の力強い成長が農業用タイヤ市場の減少によって相殺されました。
- 非常に好調な1.7%の価格ミックス効果（第1四半期は2.0%、第2四半期は1.4%）。これは市場の冷え込みによるますます競争の激しい環境において、グループが9,300万ユーロの価格管理を行った結果です。8,300万ユーロのプラスのミックス効果は、主にミシユ

ランブランドのプレミアム戦略および鉱山事業の回復、並びに直需および市販タイヤ販売の好ましい相対的実績の影響を反映しています。

- 1.9%のプラスの為替効果。主に米ドルが対ユーロで上昇したことによる影響が、ロシアルーブル、アルゼンチンペソ、トルコリラおよびブラジルリアル等の一部通貨が当期中継続的に下落したことによって弱められたことを反映しています。
- 連結範囲の変更による極めて好調な8.5%の影響。タイヤ・ビジネスおよびハイテク素材における迅速な拡大を進めるために2018年に買収したフェナーおよびカムソによる非常に力強い業績に牽引されました。

## ● 業績

**セグメント営業利益は**、前年同期の13億2,700万ユーロ、売上高比12.5%に比べ、14億3,800万ユーロ、売上高比12.2%となりました。

2019年上半期の業績は、(1)フェナーおよびカムソの連結、およびTCIの連結除外を受けた連結範囲の変更による1億100万ユーロの増加、(2)販売量の0.9%減少による4,900万ユーロの減少および1,500万ユーロの固定費未達、(3)厳格な価格管理のお陰で価格ミックス効果による堅調な1億7,600万ユーロの増加、そしてそれが、(4)原材料コスト（関税を含む）による9,700万ユーロのマイナスの影響を軽減したことを反映しています。9,700万ユーロのコスト増を相殺して余りある競争力強化による1億3,700万ユーロが得られました。減価償却費は4,300万ユーロ、初期費用は3,100万ユーロの増加となりました。その他の要因は今年度合計でマイナス2,000万ユーロでした。最後に、為替効果は報告数値に3,400万ユーロを付け加えました。

**その他営業損益は**、9,000万ユーロの費用となり、そのうち半分の4,500万ユーロは企業合併により取得した無形固定資産の償却費に対応しています。

**全体で、当期の純利益は8億4,400万ユーロとなりました。**

## ● 純財務ポジション

当期末のフリーキャッシュフローは、フェナーおよびA.T.U.の買収、および住友商事とのTBCジョイントベンチャーの設立の影響により、前年上半期から14億5,700万ユーロ改善して、マイナス5億9,200万ユーロとなりました。負債比率は、2019年6月30日時点で純債務66億6,400万ユーロに基づき54%となっています。2018年12月31日時点の修正後数値から増加した26億800万ユーロの内<sup>(1)</sup>、8億1,500万ユーロは国際財務報告基準（IFRS）第16号適用の影響、6億6,500万ユーロは配当支払い、および5億9,200万ユーロは当期のマイナスのフリーキャッシュフローにそれぞれ対応しています。

(1) 2018年12月31日期末の連結貸借対照表はカムソの期首残高を含んでおらず、同社の取得価格は仮のれんとして計上されました。2019年上半期にカムソを連結後、期首残高を修正しております。

## ● 報告セグメント売上高

(単位：百万ユーロ)	売上高			セグメント営業利益			セグメント営業利益率		
	2019年 第1四半 期	2018年 第1四半 期 (修正後) (1)	2018年 第1四半 期 (報告実 績)	2019年 第1四半 期	2018年 第1四半 期 (修正後)	2018年 第1四半 期 (報告実 績)	2019年 第1四半 期	2018年 第1四半 期 (修正後)	2018年 第1四半 期 (報告実 績)
自動車および関連販売事業	5,658	5,603	5,607	585	635	646	10.3%	11.3%	11.5%
道路輸送および関連販売事業	3,144	3,046	2,782	279	248	195	8.9%	8.1%	7.0%
特殊製品および関連販売事業	2,979	1,954	2,214	574	444	486	19.3%	22.7%	22.0%
グループ	11,781	10,603	10,603	1,438	1,327	1,327	12.2%	12.5%	12.5%

(1) カムソ買収およびオフロード事業合併後、セグメント構成に一部微調整が行われています。

### ■ 自動車および関連販売事業

自動車および関連販売事業の売上高は、前年同期の56億300万ユーロから1%増の56億5,800万ユーロとなりました。

セグメント営業利益は、前年同期の6億3,500万ユーロ、売上高比11.3%に比べ、5億8,500万ユーロ、売上高比10.3%でした。

この減少は、主に(1) 乗用車・ライトトラック用タイヤ市場の2%縮小に沿って販売量が減少したこと、(2) 固定費の未達、および(3) ブタジエン価格が2018年後半に上昇したことを受けて原材料コストが増加したことによるものです。しかしながら、これらのマイナスの影響は、グループの厳格な価格管理およびセールスマックスにおいて18インチ以上の大型タイヤの割合を増やしたことによって部分的に相殺されました。さらに、マルチストラダの連結およびレオン工場の初期費用もセグメント営業利益率を0.5ポイント引き下げました。

### ■ 道路輸送および関連販売事業

2019年上半期の道路輸送および関連販売事業の売上高は、前年に報告された30億4,600万ユーロから3.2%増の31億4,400万ユーロとなりました。

セグメント営業利益は前年同期の2億4,800万ユーロ、売上高比8.1%に比べ、2億7,900万ユーロ、売上高比8.9%で、セグメント営業利益率の持続的な改善を確認しました。セグメント営業利益の増加は、1%減の市場において安定した販売量、サービス&ソリューション事業における増益、および堅実な価格ミックス効果を反映しています。こうしたプラスの要因は、関税の一時的な2,000万ユーロの増加によって一部弱められました。さらに上半期には、グローバル・オールシーズンタイヤ・シリーズ、ライトトラックおよび



ライトバン用の MICHELIN Agilis Cross Climate の持続的成功、並びに、欧州でマスターノート買収後 100 万台をこえる契約件数となっているサービス&ソリューション事業の拡大が見られました。

## ■ 特殊製品および関連販売事業

特殊製品および関連販売事業の売上高は前年同期の 19 億 5,400 万ユーロから 52.5%増の 29 億 7,900 万ユーロとなりました。セグメント営業利益は前年同期の 4 億 4,400 万ユーロ、売上高比 22.7%に比べ、5 億 7,400 万ユーロ、売上高比 19.3%でした。

セグメント営業利益の増加は主にフェナーおよびカムソの連結によるもので、これらの業績は期待に沿ったものとなっています。しかしながら、これらの連結によってセグメント営業利益率は 3.7 ポイント低下しました。

連結範囲変更の影響を除外すると、セグメント営業利益は前年同期の 22.7%から 23%に改善しました。これは(1) 鉱山用タイヤ事業による極めて好調な業績が、市場低迷を受けた農業用タイヤの販売量減少に部分的に相殺されて、販売量が 1%増加したこと、および(2) 直需の農業用タイヤセグメントにおける収益性に特に重点を置いた堅実な価格効果によって牽引されたものです。

## 2019 年上半期の非財務的評価

2019 年上半期、ミシュランは複数の認証および格付によって、持続可能な発展とモビリティへのアプローチを認められました。

**ISS oekom**— 2019 年 7 月 5 日、ミシュランは ISS-oekom 企業格付の「Prime (プライム)」を取得し、ESG (環境、社会およびガバナンス) の実績について査定された 66 社のメーカーのトップにランクされました。

**責任ある調達**— 2019 年 6 月、ミシュランは「サプライヤー・リレーションおよび責任ある調達」レベルを受賞しました。今日まで、ミシュランは世界中の購買業務すべてについて当レベルに認められた唯一の企業です。それと同時に、2019 年 5 月、新たな国際規格 ISO 20400「持続可能な調達基準」に関して、ミシュランは購買業務が適格であるという承認を受けました。

**多様性**— 男女の賃金格差と闘う取り組みにおいて、フランスの女男平等・差別対策担当副大臣および労働省は 2019 年に男女平等指標を導入しました。ミシュラン・フランスが 94/100 に格付されたこの指標は、当社の職場プログラムにおける男女平等が非常に前向きな影響力を持っていることを示しました。

これらの格付はミシュランの持続可能なモビリティの発展への揺るぎないコミットメントの証しです。

## 2019 年上半期の業績ハイライト

- ジュネーブ国際モーターショーにおいて、ミシュランは MICHELIN Pilot Sport シリーズの 2 つの最新商品、MICHELIN Pilot Sport 4 SUV および MICHELIN Pilot Sport Cup2 R タイヤを発表 (2019 年 3 月 5 日)

- インドネシアの大手タイヤメーカーPT Multistrada Arah Sarana TBK の株式 87.59%取得（2019 年 3 月 8 日）に続き、グループは残りの発行済株式について公開買い付けを開始（2019 年 4 月 16 日）。ミシュランは現在株式の 12.05%を追加で保有しており、マルチストラダの株式 99.64%を保有（2019 年 6 月 19 日）
- ミシュランはいくつもの功績、特にグループの環境への取り組み、製品イノベーションおよび摩耗タイヤのパフォーマンスについての優れた業績を認められ、ドイツで行われた 2019 年タイヤ・テクノロジー・エキスポにおいて「タイヤメーカー・オブ・ザ・イヤー」を受賞（2019 年 3 月 8 日）
- フォルシアとミシュランは水素モビリティの分野で将来の世界的リーダーとなる合併会社を設立（2019 年 3 月 11 日）
- 新製品 MICHELIN Anakee Adventure モーターサイクル用タイヤを最もダイナミックで競争の激しい革新的市場の 1 つにおいて発表（2019 年 3 月 21 日）
- スペインのアルメリアでインベスター・デーを開催し、2019 年から 2023 年の間に実施予定の 5 億ユーロの株式買戻しプログラムを発表（2019 年 4 月 4 日）
- ミシュランは X Multi リージョナルトラック用タイヤのラインナップを拡大し、駆動軸専用の X Multi HD D および低床トレーラー用タイヤ X Multi T2 を発売（2019 年 5 月 3 日）
- Gulf Air はミシュランを専属タイヤサプライヤーに選定し、すべての航空機に MICHELIN Air X タイヤを装備（2019 年 5 月 3 日）
- ミシュランは、欧州大手テレマティクス・プロバイダーの 1 つ、マスターノート買収を発表し、地域のテレマティクス・ソリューションの展開を加速（2019 年 5 月 16 日）
- マネージング・ジェネラル・パートナーのフロラン・メネゴーが年次株主総会後最高経営責任者に就任（2019 年 5 月 17 日）
- ミシュランは独自の官民のパートナーシップに 22.8%出資して Hymplusion を設立し、オーベルニュ＝ローヌ＝アルプ地方の再生可能水素燃料モビリティを促進（2019 年 5 月 20 日）
- ミシュランガイド・カリフォルニアの初版に精選された 90 軒の星付きレストランを掲載（2019 年 6 月 4 日）
- ミシュランとゼネラルモーターズは乗用車向け次世代エアレスホイールテクノロジー、MICHELIN Uptis Prototype（独自のパンク防止タイヤシステム）を Movin'On サミットにて発表（2019 年 6 月 4 日）
- 2019 世界耐久選手権ール・マン 24 時間レース 2019 : Toyota Gazoo Racing の 2 連勝によりミシュランの 22 回連続勝利が確定（2019 年 6 月 17 日）
- BMW は MICHELIN Pilot Sport 4S\*を新モデル X3 M および X4 M モデルのタイヤに選定（2019 年 6 月 18 日）
- ミシュランと Safran は Dassault Falcon 2000S に装備した初のコネクテッド航空機用タイヤのフライトテスト成功を発表（2019 年 6 月 19 日）

- ミシュランはウィーンにおいて、LONG LASTING PERFORMANCE（長期耐久性能）アプローチの安全性、購買力および環境上の利点について講演。このアプローチは、2022 年から EU 安全規制に摩耗タイヤ検査を追加した欧州議会により承認（2019 年 7 月 1 日）

2019 年度ハイライトの全文はミシュランのウェブサイトでご覧になれます。

<http://www.michelin.com/en>